



翠巒 Mini Press 第175号 2022/4/8 編集・発行 高崎高校新聞部

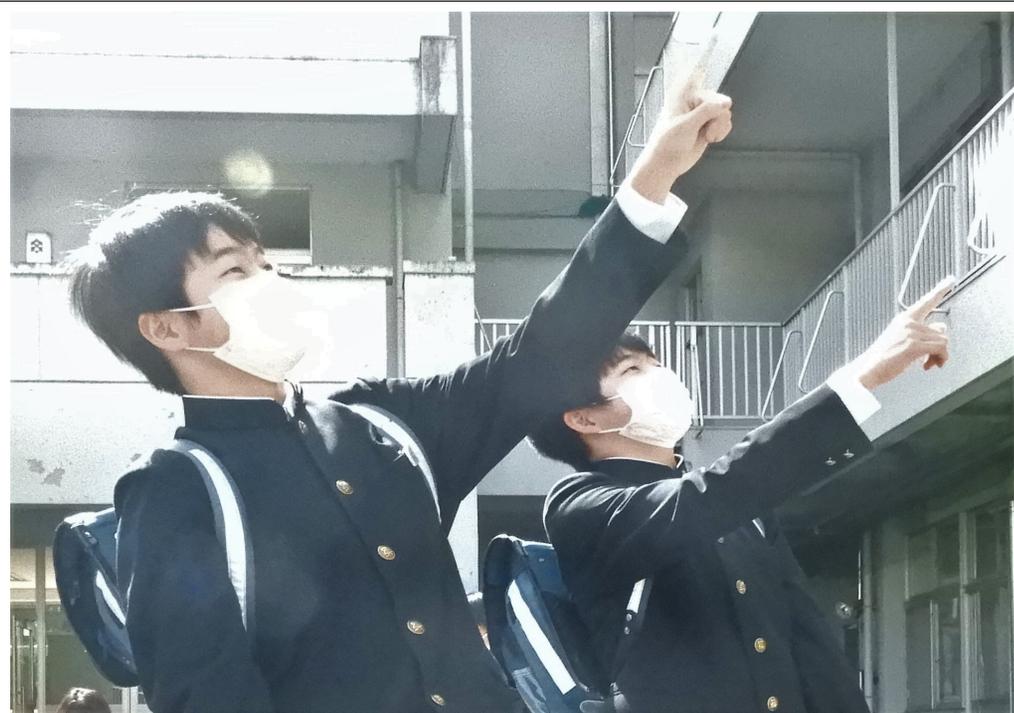


# 新たな一歩を踏み出す

## 前期選抜・後期選抜合格発表

# 「うっしゅあっ!!!!!!!!!!!!!!」

### 新入生、素直に喜びを表現



希望に満ちた表情で合格発表にのぞむ新入生たち

2月17日に前期選抜試験（以下、前期）の合格発表、3月16日に後期選抜試験（以下、後期）の合格発表が行なわれた。前期の倍率は4.01倍で昨年を0.40ポイント上回った。また、後期の倍率は1.41倍で昨年を0.22ポイント上回り、どちらも昨年と比べて高い倍率となった。合格発表は、校内での掲示に加えて、昨年と同様にインターネット上でも行なわれた。そのため、事前に結果を確認し、高校生活への希望に満ちた表情で、高高へと足を踏み入れる新入生が多く見られた。

そこで、高高への合格を果たした生徒に合格後の心境や将来の展望などを取材した。新入生は、将来についてすでに考えの固まっている人も多く、高校生活への意気込みが窺えた。新しい生活への希望を胸に、仲間たちと切磋琢磨して取り組んでいけば、充実した高校生活を送っていけるだろう。

（秋山）

- ◆ ◆ ◆ ◆ ◆
- ①合格した気持ち。②入学後の意気込みは。③入りたい部活は。④高校卒業後の進路は。
- ◆ ◆ ◆ ◆ ◆
- ◆ 須藤慧大くん（中尾）
  - ①この一年間の勉強してきた成果が出て良かった。一番は素直に嬉しい。
  - ②高高でこれからの決めていきたいと考えている。
  - ③学芸部に入部したい。
  - ④未定である。高高で考えていきたい。
- ◆ 河内勇人くん（吉井中央）
  - ①中学校一年生の時から前向きに勉強を続けてきた。今まで努力が報われる機会に乏しかったが、高高に合格でき努力が報われて嬉しい。
  - ②高高ということもあり、文武両道を体現したい。
  - ③未定である。入学後に考えている。
  - ④東北大学へ進学したいと考えている。
- ◆ 津田直毅くん（高松）
  - ①嬉しいと思っっている。だが、それ以上にこれからの高校生活に期待している。
  - ②高校に入ったため、行動範囲がひろがると思う。そのため、様々なことに挑戦していきたい。
  - ③未定である。できることから、何か新しい部活を作りたい。
  - ④東京大学に進学したいと考えている。
- ◆ 根岸知生くん（高松）
  - ①合格できたことへの安堵の気持ちがある。
  - ②将来の大学進学のため、高での勉強に力を入れたい。
  - ③未定であるが、津田くんの作った部活に入部したい。
  - ④東京大学か東京工業大学に進学したいと考えている。

- ◆ 進学したいと考えている。
  - ◆ 河内大和くん（吉井中央）
    - ①中学校一年生から勉強を続けてきた。高高に受かって嬉しい。
    - ②勉強と部活を両立し、文武両道を体現したい。
    - ③未定である。入学後に考えていきたい。
    - ④詳しいことは未定だが、国立大学に進学したいと考えている。
  - ◆ 高橋心くん（安中第二）
    - ①テストでできなかったところが多いが、合格できてうれし。
    - ②将来の夢である教師になるために、自分でできることを精一杯したい。
    - ③未定である。高校に入ってから決めたいが、運動部に入部したい。
    - ④未定だが教師になるために大学に進学したい。
  - ◆ 市村有人くん（塚沢）
    - ①うっしゅあっ！とおもっている。とにかく率直にうれし。
    - ②だが、同時にレベルが高いので、勉強面で不安を抱いている。
    - ③バスケットボール部に入部したいと考えている。高いレベルの環境でプレーすることによって県上位を目指したい。
  - ◆ 田嶋慎太郎くん（塚沢）
    - ①県内でトップレベルの高校に入学できて安心している。人生の選択肢が増えたと思う。また、男子校ということもあり、かわいい彼氏を作りたい。
    - ②定期戦を楽しむに思っている。前高に勝ちたい。
    - ③硬式野球部に入部したいと考えている。
    - ④東北大学に進学したいと考えている。

**NOTE**

みなさんは鉄道の軌道、つまりレールを意識的に見たことがあるだろうか。例外はあるものの、日本の在来線では、主に軌道の幅の狭い狭軌（1067mm）が用いられている。しかし、世界的に見ると狭軌を用いている国は少数であり、欧米諸国は標準軌（1435mm）を用いている。日本の鉄道に狭軌を導入することを決めたのは大隈重信である。狭軌はコストがかららない反面、曲線通過速度や輸送力不足などが問題であることから、大隈は後に「日本の鉄道を狭軌にしたのは一世一代の不覚」と嘆いた。確かに日本の鉄道に狭軌を導入したのは失敗かもしれない。しかし、狭軌を導入したからこそ、日本の技術力は向上した。曲線の遠心力を減らし、乗り心地を良くするために車両を傾ける車体傾斜装置は良い例だろう。輸送力不足に関しては、車両の幅を広くする拡幅車体などの技術によってカバーされている。このように、不利な状況が新幹線のような世界初の高速鉄道を生む力となったのである。狭軌という大きなハンディキャップを抱えているが、日本の鉄道は世界でもトップクラスなのだ。高高に入学を果たした新入生諸君も、他の人に劣っていると思うことがあるかもしれない。しかし、劣っている部分があるからこそ、成長することができるのではないだろうか。これから先の高校生活は楽なものではない。その中でも、自分を信じて頑張っていこうと思う。

（畑）

※「NOTE」は、昨年8月のオープンスクールに際して発行した173号のものを、一部修正して再掲載しております。